

インドネシア
メナド

3年目の
スペシャル
トリップ

鍵井靖章と行く ミンピ号の旅

毎年、夏の恒例となった水中写真家・鍵井靖章と行くミンピ号クルーズ。このスペシャルトリップも、今年で3年目を迎える。航海ルートは、プテラポゴン・カウデルニなど珍種が続々と登場するマクロ派ダイバー垂涎のレンベ海峡、蛍光ソフトコーラルの森が続くバンカエリア、そして美しいサンゴ礁とウォールダイブでも世界的に有名なバナケン島周辺の国立公園を予定。その3つの異なったエリアを一度のクルーズで潜り込む欲張りクルーズ。船上以外でもキャンプファイヤーや買い物ツアーなど楽しみは盛りだくさん!

Photo & Text **Yasuaki Kagii**
Special thanks **World Tour Planners**

MINPI
CRUISE

www.web-lue.com

Web-lue 2006. Spring

 **Information Link**  情報HPへジャンプ
<http://www.wtp.co.jp/manado/tour/safari.html>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



今年で3年目を迎えようとしているミンピ号スペシャルクルーズ。初年度(2004年)は、マハゲタン島近くの海底火山まで行くノーザンルートという計画で始まりましたが、海洋状況が少しでも悪化すると、短い日程でのその航海の成功が困難であるということを第1週目のクルーズで経験し、その後は、バンカ、レンベ、ブナケンの3つのエリアを巡るクルーズとして航海を行っています。

以前、メナドと言えば、ブナケン国立公園周辺でのダイビングが一般的でした。しかし現在はダイビングエリアを広げ、バンカ、レンベ方面まで足を伸ばすようになりました。メナドのリゾートホテルに併設されているダイビングセンターも日帰りトリップとして、バンカ、レンベ方面にダイビングに向かいます。しかし、それはスピードボートでの長時間移動であったり、またダイビングセンターによっては陸の車移動になります。また、そのような日帰りトリップは最小催行人数もあり、自分の予定通りに行かない場合もあります。

レンベの場合はダイブリゾートもあり、マクロ好きな方はそこに滞在されるケースもありますが、バンカは半島の沖合いにあるために、やはりボートでのアクセスになります。その3つのエリアを網羅するミンピ

号は、クルーズ船と言う特徴を活かして、のんびりとした航海を行い、また、各エリアで1日4本のダイビングする時間をしっかり確保しています。

今、メナドの海の魅力をより知って頂くためには、ブナケン国立公園周辺はもちろん、バンカ、レンベといった全く異なる環境でダイビングをして頂くことが最適だと考えています。正直なところ、僕はメナドの海に10年近く通っていますが、もし、ダイビングエリアがブナケン国立公園周辺だけならば、これほどこの海に通うことはなかったと思います。途中から、バンカ、レンベと言ったエリアが、メナドダイビングエリアとしてラインナップに加わり、その多様性に大変惹かれ、僕は現在もこうしてメナドの海に通っています。魅力的なポイントが多いですから、一度のクルーズでその全てを知って頂くことは難しいですが、メナドの海の素晴らしさを少しでも皆さんと共有したい、と思っています。本当はあまり人に教えてたくない、そっとしておきたいというポイントもあるのですが、クルーズ船の乗船人数も決まっていますし、そっとお邪魔する気持ちで、潜りたいと思っています。そんなことを考える時、日本からメナドへの直行便がなく、不便に思う時もありますが、それがかえて、この海を守るために良いことかな、とも思っています。ほんとと素敵なお海

なんです。

それでも、昨年は航海ルートに予定していた(ポポ)エリアが人気集中のために、ポロカサゴなどの注目種がいなくなったと報告を受けました。残念なことです。そのため昨年は予定していたルートを少し変更し、バンカ、レンベ、ブナケンエリアで潜れる日を増やしました。ゲストの皆さんのリクエストを聞いて、その都度、航海ルートを多少組み変えていましたが、やはり、人気があったのは、レンベ海峡でのダイビング本数を増やすスケジュールでした。そのようなスケジュールの多少の変更ができるのも少人数のクルーズ船だからだと思っています。

居住エリア、食事、ダイブスケジュールなどを年々改善することで、少しでも快適なクルーズライフを提供したいとインドネシア人スタッフとタラサダイブセンターの協力を頂いています。2年前は白い帆船タ

イブのミンピ号も居住性を高めるために改造したのですが、今は帆船だった頃の面影はなく、外觀は以前のほうが、カッコ良かった！とよく言われます。最近人気のあるモルディブのような豪華なクルーズ船ではなく、小振りでシンプルな作りですが、そこで知り合ったゲスト同士、また海との距離を近づかせてくれる素敵な船です。

※これまでのミンピ号のクルーズゲストですが、有り難いことにリピーターの方もいらっしゃいますが、ほとんどの方は初対面の方です。僕がモルディブでダイビングガイドをしていたこともあり、仲の良い内輪だけのクルーズ船かな？と思われることもありますが、そうではありません。新しい出会いを楽しんでいます！気軽に参加して下さい！

※また、昨年度のWEB-LUEバックナンバーも参考にして下さい。
Link▶ <http://web-lue.com/archives/01/archives.html>

鍵井靖章 2月17日2006年

ミンピ号のこと

鍵井靖章と行くミンピ号の旅



01. サハウⅡのトッピーフ、様々な色彩が狂喜乱舞する
 02. 驚きの色彩がそこでは待っている
 03. ウミウシなどの生物も良く見つかる
 04. ウミウシカクレエビなどもバンカ島周辺では定番
 05. 根の先端ではヨスジフエダイの群れが見られる

ミンピ号が巡るルートのなかで、一番北に位置するバンカ島。大小2つの島の間に大きな湾があり、ミンピ号はそこで停泊、もしくは係留し、私たちは小型ボートでダイビングに向かう。

このエリアでの魅力は、何と云って「蛍光色のソフトコーラルの群生」だ。特に〈サハウⅠ〉にある大きな根は、このクルーズはハイライトのひとつでもある。

これまで、何度も綴ってきたが、その類稀なる〈美しいソフトコーラルの森〉は、もし水中の世界遺産を選出することができるならば、迷わずこの根を推薦したい。この2年間のミンピ号クルーズで、大物好き、群れモノ好きのゲストダイバーとこのポイントに潜る機会が幾度もあった。普段はソフトコーラルにあまり興味がないゲストでも、「このポイントは本当に美しい、最高に楽しかった。もう一度潜りたい」と太鼓判を押してくれた。正直言うと私がメナドに帰ってくる理由のひとつに、このソフトコーラルの存在が大きい。だから、お褒めの言葉を頂くと、なにか自分の大切なものが褒められているようで、本当に幸せになる。ただ、

潮の流れによって、ソフトコーラルのポリプが開いていないこともある。そんな時は、やはり花が枯れたように寂しい印象となる。だから、そんな場合は状況が許す限り、このポイントに再エントリーするようにしている。せっかくメナドまで来てもらったのだから、最高のパフォーマンスを見て帰って欲しい。またそのような機転を利かすことができるのもクルーズならではのだから。

その他のダイビングポイントであるタンジュンセピアや対岸のマチコポイントなども、バンカらしいカラフルな海中世界が広がっている。バンカでは溢れ出し、毀れそうになる海の色を楽しんでもらいたい。



バンカの魅カ

MINPI
CRUISE

美しいソフトコーラルの森

鍵井靖章と行くミンピ号の旅

 Information Link <http://www.wtp.co.jp/manado/tour/safari.html>  情報HPへジャンプ



01. プテラポゴン カウデルニイ
は是非、見て欲しい魚種
02. 毛に生えたイザリウオも
数個体見つかる
03. コウイカが体色を変えなが
ら砂地の上を泳ぐ
04. ニシキテグりを観察でき
るポイントを開拓中
05,06. イレズミウミヘビやウ
ミウシなどの変な生き物がた
くさん



合言葉は「イジャリウオ！ イジャリオウ！」

レンベ海峡は最近、ダイビング雑誌でも頻繁に取り上げられている注目のエリア。ここは言わずと知れたマクロの生物の宝庫で、大物&群れモノ好き、ドリフトダイブ好きのダイバーをちっちゃな生き物のマクロの世界に、初めて心酔する恐れのある場所でもある。眼力のあるガイド陣が、何の変哲もない砂地からテンポ良く、色んな生物を見せてくれる。見られる生物はこのレンベ海峡を一気にスターダムにまで押し上げた立役者、プテラポゴン・カウデルニイを始め、ツノカサゴ、ハタタテガレイ、ヒポカンボスの新種、イッポン

テグリ、ウミウシ各種、センネンダイ、ネジリンボウ、ヒレナガネジリンボウ、ササハゼ、タツノオトシゴの仲間、イレズミウミヘビ……などなど、とても書けない。それに変な子ちゃん揃い。ピグミーシーホースに関しては、〈ヌディーフォールズ〉というポイントの水深18mのウチワに12匹も居る。だから、ゲストは自分でも見つけれる！と感激している。「ここでは、撮影するもの多くて、デジカメのメディアの容量が毎回、心配になる！」とか、「ガイドが次から次へと見せてくれるので、上がってきたら、忘れて

しまう」とゲストの反応は抜群だ。僕もガイド時代を思い出して、コースを先回りして、何か不思議な生き物を見つけると、みんなに見せたくて、待ち伏せしている。しかし、ふたりのガイドが色々を見せてくれるので、とても時間が掛かり、ゲストが僕のところまでなかなか来てくれない……(悲)。

また、このレンベでは大きな問題がある。それは、みんなの潜水時間がとても長いということ。特に去年は水温が高かった(レンベの水温は通常27度前後)せいか、60分の予定を越え、70分や76分もみんな潜っていた。別

に強制しているわけではなく、自ら楽しんでいるのだから大変嬉しいけれど、日中に4ダイブの計画で、スケジュールされているため、毎回のダイブごとに予定が少しずつ後ろにズレていく。そして4ダイブ目は、いつもサンセットダイブになってしまう……。それでもゲストの皆さんは楽しんでた様子でしたから、良いのですよね。今年もたくさん、潜りましょう！！



鍵井靖章と行くミンピ号の旅

クルーズの途中 無人のビーチでインドネシア版 「大きな焚き火」が始まる



小型ボートに乗り込み、月光に照らされた蒼白いビーチを目指す。

上陸して、流木の腰掛けると、大きな炎が上がった。

最初はビックリしていたみんなも、はしゃいでカメラを持ち出す。

炎が上がると火の粉が舞い、林のなかに入っていく

その様子はまるで森の蛍のようだった。

そして、まだ高く舞い上がる小さな光は、星になりそうな勢いだった。

焚き火の光は明るく、みんなをオレンジ色に染め上げた。

最終週のゲストだったアキラさんが

「この炎の光でディナーもいいですね」と教えてくれた。

さて、今年、それを実現できるか……。

ファイヤーストーム

鍵井靖章と行くミンピ号の旅



01

01. アオウミガメが大きな口を開けて威嚇してきた。
02. ゲストの記念ダイブを水中撮影！
03. 太陽の光の下でダイブ！



02



03



(写真左から)デバスズメダイの可憐な泳ぎ / 青い海に黄色いイソバナが揺れる / 海底から魚の視線を感じる

ブナケン国立海洋公園は、メナドのダイビングでは一番ポピュラーなエリア。世界的にも有名なウォールダイビングが楽しめる場所で、美しいサンゴ礁、バラクーダやギンガメアジの群れ、そして種類豊富なトロピカルフィッシュとの出会いがある。そこは、バンカ、レンベといった個性の強い海域ではなく、子供たちが描く「海のなかの世界」が、まさに広がっている。国立海洋公園はブナケン島を始め周囲にある4つの島の海を指し、ポイントの数も多く、実にバラエティーに富んでいる。ここでのダイビングポイントの選択はいつも迷うが、代表的なポイントで、個性の違ったものを選択するようにしている。

朝一番でよく潜るのが、メナドトゥア島の「タンジュン・コピ」というポイントで、潮の流れもあり、メナドの「ブルーコーナー」とも呼ばれている。ここで会えるギンガメアジもバラクーダの群れは小規模だが、リーフを彩るカスミチョウチョウオやウメイロモドキの群れは、青い海に良く映えて美しく見応えも抜群だ。また、癒し系ナンバーワンの「フクイポイント」。白砂とサンゴ礁が交じり合うポイントで、ここでは、海の青色が、ほんのりと水色のように映る。そして、有名なドロップオフでのダイビングを楽しむことができる「レクアン」。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと3つの箇所に分かれるが、ミンピ号ではよく「レクアンⅢ」を潜っている。その理由は、大きなアオウミガメと会える可能性が高いからである。なかになかなか近づける個体もいて、ドロップオ



フの隙間で寝かけているところに出くわすこともある。昨年は、かなり大きな個体と出会い、顔の前までカメラを近づけて、撮影していると、口を開けて威嚇してきた。後で見ていたゲストに「お昼寝の邪魔してましたね」と厳しい指摘も受けた……すみません。そして、潮の流れに乗りながら、壁沿いをドリフトダイビングで楽しんでいくと、無数のカスミチョウチョウとクマザサハナムロが永延と群れていた。上から見下ろすと、太陽の光を浴びて浮かび上がる。透明度の高いブナケンでは、何気ない風景だが、とても美しかった。

ダイビングを終えた後、迎えに来た小型ボートにゲストが乗り込むことを阻止して遊ぶ。温かくて穏やかなブナケンの海では、自然とそうなる。水面でみんなが笑う。それはガイド時代から変わらずで、最高に楽しい時間だ。

ブナケン

最高に楽しい時間



鍵井靖章と行くミンピ号の旅

Information Link <http://www.wtp.co.jp/manado/tour/safari.html> click! 情報HPへジャンプ



01 02



- 01. オオモンイザリウオとシラコチョウウオ(ウイムスポイント)
- 02. 美しいサンゴ礁が続くシラデン島のハウスリーフ
- 03. 小さな生き物もアートをしている



03

ミンピ号では、その年に旬なポイントであったり、ゲストのリクエストに応じた生物のためのポイントであったりと、少しずつだが、新たなポイントを加えるようにしている。

昨年度(2005年)も、ダイビングポイントの新しいラインナップが加わった。

まず、バンカの東側に位置する「バツウゴソ」。橋杭岩のような水面の風景が水中まで続いたようなポイントで、起伏あり、トンネルありとい地形も楽しめる。海底、壁の一面を被う様々な底生生物とコブシメ、ニシキフウライウオ、ロウニンアジなど様々な生物にも会える。特にサイズが0.5mmのヒポカンポスspと呼ばれるピグミーシーホースの新種をガイドが見つけてくれる。この広い海で見つけてしまうのだから、ほんと脱帽……。

そして、レンベから北に1時間ほど走らせた場所でバンカとの中間地点にあるウイムスポイント。まだまだ潜られていないポイントで、トップリーフの周りには黄色などのカラフルなソフトコーラルが咲き、キンギョハナダイが彩りを添えている。また、ハードコーラル、腔腸類もごちゃり壁に付き、ワイルドな感

じを漂わせる。潮の当たりも良く、魚影も濃い。ゲストの中には「魚がたくさんいるので見る気を失ったと……」という声も。昨年は水深約12mのところに、オオモンイザリウオが2匹居着いていた。

最後は、ダイビングの最終日、プナケン国立公園で3本のダイビングを計画しているが、その一番最後のダイビングにお薦めしているポイントがシラデン島のハウスリーフ。トップリーフのサンゴ礁がとにかく美しく。下手に水深を下げるよりも、水深5mくらいを漂っているほうが楽しめる。クルーズ中はよく潜るので、最後は浅めでのダイビングが良いのかも知れない。たくさん潜ったクルーズの締め括りは、手付かずの美しいサンゴ礁で癒されて欲しい。



新開拓

手付かずの美しいサンゴ礁で癒される

鍵井靖章と行くミンピ号の旅

 Information Link <http://www.wtp.co.jp/manado/tour/safari.html>  情報HPへジャンプ

ミンピ号は全長20.6m。幅5.26m。定員は8名とプライベート感覚が楽しめる。それほど大きなダイブクルーズ船ではないが、サロンなどゆったりとした空間を確保している。客室は全て4つ。2段ベッドの部屋が2つとダブルベッドの部屋が2つ(各トイレ、シャワー、エアコン付き)。昨年はトップデッキが改装され、より快適度が増した。

食事は全てbuffet方式です。ミナハサ料理といわれる地元料理で、伝統的なインドネシア料理と中華、洋食をミックスした料理で、日本人の口に良く合います。また、スペシャルトリップでは、朝食に「ブル・メナド」というおかゆを用意しています。アジアでは人気の食べ物で、チキン入りで、ショウガの香りがし、それにゆで卵などをのせて食べます。毎回ゲストには大

好評です。

ランチやディナーの一品にリクエストがあれば、現地の人が食べているチリをふんだんに使用した料理も用意します。辛いもの好きの方、特に女性には大人気です。時々、辛すぎて僕は、撃沈することもあります。……(笑) また、夕食前のビールタイムなどにカルブックといった、揚げ立てのエビセンを用意します。またこれが、おつまみに最高で、たくさんの方がお土産に買ってかえります。

アフターダイブですが、ブナケン島周辺でダイビングを楽しんでいると、地元のお母さんが小船でやってきて、貝でできたアクセサリやパレオ、Tシャツなどの販売を船上で行う。品物は安いですが、それでも値切る

ゲストもいる(笑)。また、ダイビングの最終日はメナドの町にミンピ号で向かい、ショッピングツアーに出掛ける。最近完成した大型モールなどでお土産などを買うことができる。特に人気だったのが、地下のスーパーでの買い物。とにかく安い。物価の例として、インスタントラーメン、8~10円。缶ビール100円、石鰯10円などなど。女性陣はカートを引っ張って買い物をどっさりしては、レジで渋滞を引き起こします(笑)

また、これもリクエストですが、その夜は、水上レストランの「バハリ」というお店でシーフードのディナーを楽しむことも出来ます。新鮮で大きなマンガロブガニやエビなどをお好みの調理法で頂くことができます。また、そのレストランの前にはワコールがあり、日本に比べて安価で、女性に人気があります。

通常、ゲストには、「3000円くらいをインドネシアルピアに換金して、足りない分はカードで賄えば良いです」と言っていますが、お買い物をたくさんする方は、USドルが買い物ではほとんど使えないので、インドネシアルピアにもっと換金することをお勧めします。

「ダイビングスタイル」・「気候、水温、ウェットスーツについて」・「スラウェシ島・メナドとは」については、WEB-LUEバックナンバーを参照して下さい。

[Link](http://web-lue.com/archives/01archives.html) <http://web-lue.com/archives/01archives.html>

予備知識

ミンピ号の施設と食事！ そしてアフターダイブ！



01. 船内の様子



03



05



06



07

- 02. 甚平と浴衣で記念撮影
- 03. 夕日の時間をデッキで過ごす
- 04. 船内にお土産物屋さんがやってくる
- 05. 楽しい食事の時間、味も美味しく種類もある



02



04



05



08

- 06. 夜は風に吹かれてサンデッキでビール
- 07. ショッピングモールで買い物もできる
- 08. 最終日の夜は町のレストランに行く事もできる

MINPI CRUISE

鍵井靖章と行くミンピ号の旅

[Information Link](http://www.wtp.co.jp/manado/tour/safari.html) [click!](http://www.wtp.co.jp/manado/tour/safari.html) 情報HPへジャンプ

ゲスト'Sボイス

MINPI
CRUISE

2005年クルーズに参加した
ゲストの皆さんの声です



第1週目のクルーズに参加されたゲストの皆さん&クルー

牛山 みどり さん(第1週目ゲスト)

定員8名の小さなミンピ号が私の初クルーズでした。心配の船酔いは問題なく過ごしたのですが24時間掛かりっぱなしのエンジン音と慣れない環境のため、初日はなかなか寝付けなかった。モーニングコーヒー、ダイビング、食べる、飲むのクルーズライフにいつしかエンジン音にも慣れ心地良い時間が流れていた。

メナドの海は珍生物の宝庫です。簡単デジカメで写したイッポンテグリの幼魚、ピグミー、どれもピントが甘く、次回メナドクルーズで再挑戦予定です。海がいい、人がいい、殿様ダイビングだ、エンジンの音も、トイレの使い方も、慣れてしまえばメナドクルーズは極楽だ、そして木船ミンピ号は木のぬくもりノスタルジーとして私の心に残っています。



第2週目のクルーズに参加されたゲストの皆さん

井上 貴美子 さん(第2週目ゲスト)

珍種が続々登場で、初ものづくしだったマクロワールド・レンベ、ソフトコーラルが感動的に美しい、まさしくお花畑のバンカ、そして、迫力のウォール&ドリフトダイブが楽しいブナケンと、ミンピで潜る海は、また必ずここに戻って来たい、と思わせる海です。

ガイドの確かなマクロ眼力に、鍵井さんのサポートで昼はダイビング三昧、夜は、地酒片手に、自然に飲んで歌って、素朴だけれど、笑いがいっぱい楽しいクルーズでした。



第3週目のクルーズに参加されたゲストの皆さん&クルー

成田 美樹 さん(第3週目ゲスト)

ミンピ号はメナドのいい所がギュッと詰まったクルーズです。レア物、癒しの海をくまなく回り、メナドの魅力を最大限出しています。一度行ったら、また、行ってみたいメナドの海です。

渡辺 俊雄・春江 さん(第3週目ゲスト)

私共夫婦は60歳半ばの高齢ダイバーのため、常に安全を最優先に考えております。

今回は、鍵井さんには申し訳ありませんが、5人の少人数に参加でき、3人のゲストに1回おきに鍵井さんが同行されたので、安心してダイビングを楽しむことができました。寝食を共にし人間関係も深まり、ダイビングを一層楽しいものにしてくれました。鍵井さん・ゲストの皆さん・ガイドさん・クルーの皆さんに感謝します。



第4週目のクルーズに参加されたゲストの皆さん&クルー

三原 義浩 さん(第4週目ゲスト)

メナドにすっかりはまってしまい、ここ数年通っていますが、何度潜っても飽きることがなく毎回新発見があります。レアな魚がザクザクで宝探のようなレンベ海峡、真っ青な海にピキピキ珊瑚のブナケン島、オレンジと黄色が眩しいくらい一面ソフトコーラルのバンガ島。すべての欲求を満たしてくれるのがこのミンピ号です。

クルーズの途中ではキャンプファイヤー(?)やメナドの街で買物もできます。ナシゴレンの素はとてもおいしくお土産としても好評でお勧めです。

鍵井靖章と行くミンピ号の旅

日本円から インドネシア・ルピアへの両替について

日本円からインドネシア・ルピアへの両替は、シンガポール空港で可能です。または、到着後のメナド空港でも出来ます。ただ、メナド空港はターミナルのある空港内と空港の外に両替所があるのですが、空港の外の両替所の方がレートが良いようです。またシンガポール空港とメナド空港の外の両替所のレートの違いを厳密にはわかりませんが、どちらでも同じくらいだと思います。ちなみに私はトランジットの時間を使って、シンガポールで行ないます。

※必ず用意して頂きたい金額は下記の通りです。

- ①インドネシアの入国ビザ購入料金…US10ドル
- ②バナケン国立公園の入海料
……………50,000ルピア
- ③出国時のメナド空港で払う空港使用税
……………75,000ルピア
- ④ミンピ号クルーズへのチップ……US20ドル
※チップはお気持です。

上記の4つの金額だけでしたら、US30ドルと約2,000円分くらいのルピアで充分です。ちなみにミンピ号クルーズのビール1本の料金は25,000ルピアで約270円ほどです。また、ミンピ号クルーズでは最終日にメナドの街に買い物に行きます。お土産の購入などがある方は日本円で4



メナドの海を自由に航海するミンピ号

～5,000円ほど両替しておけば、良いかと思えます。また、クルーへのチップもルピアでも大丈夫です。ミンピ号で飲まれたビールなどの精算は、下船後にタラサダイブセンターで行なます。クレジットカード(VISA, Master)での支払いが可能です。

メナド入国時のビザについて

メナド空港に降りたって、まず行なわなくてはいけないことは、ビザの購入です。これを買う場所はひとつしかなくて、結構並びます。多くのゲストの方からも「あれは大変だった」と言われていました。まず、飛行機から降りたら、人の流れの乗って、入国審査(イミグレーション)に行ってください。イミグレーションの前にビザを買うカウンターがあります。できれば、早めにそのビザのカウンターに到着した方が楽です。できるかどうかわかりませんが、日本で飛行機のチケットを貰う時に、シ

ンガポール～メナド間は前の方の座席が欲しいとリクエストしてみてください。

なお、ビザの種類は2つあります。インドネシア滞在7日以内は10ドル。そして7日以上が25ドルです。ミンピ号だけ乗船される方は10ドルのビザを購入してください。

ドリンクについて

ミンピ号で販売されているアルコールはビールだけです。コーヒー、紅茶、またコーラやスプライトなどのソフトドリンクなどは無料です。もし、強いお酒をお好みの方は、持ち込みをお願いします。

その他

停泊する場所によって、蚊が出るところもありますので、虫除けなどを持ってきた方が良いでしょう。また、DVDプレーヤーがあります。お好みのDVDやCDを持ち込んで頂くことを歓迎します。

メナドの海に惚れ込んだ水中写真家 鍵井靖章と行く スペシャル・ミンピ号ツアー2006開催



昨年の好評！に引き続き今年も鍵井靖章の乗船ツアーを行います。過去2年間の経験を活かして今回もよりパワーアップしたクルーズライフを皆さんと楽しみたいと思っております。メナドの海と一緒に楽しいダイビングを楽しみましょう！

※昨年のミンピ号航海日誌は

[Link](http://kagii.jp/cruise/2006) <http://kagii.jp/cruise/2006>にて公開中

[ツアー日程]

- 出発地 東京・名古屋・大阪・福岡
- 出発日
2006年7月30、8月6、13日、20日
※ 日本発着 8日間(クルーズ 5泊 6日)

ツアースケジュール	朝	昼	夕
1 各地よりシンガポールへ 到着後、シャトルバスにてホテルへ (ホテル泊)	-	-	機
2 朝 シャトルバスにて空港へ、空路にてメナドへ 午後 到着後、送迎車にてクルーズ船へ (船中泊)	-	機	○
3 終日 4ダイブ予定	○	○	○
4 予定ルート:3日目(バンカ島)、4日目(レンベ海峡) (船中泊)	○	○	○
5 終日 4ダイブ予定 (バンカ島または、レンベ海峡) (船中泊)	○	○	○
6 3ダイブ予定 予定ルート:バナケン国立公園 (船中泊)	○	○	○
7 午前 下船後、メナドよりシンガポールへ 深夜 シンガポールより各地へ (機中泊)	○	-	機
8 朝 到着後、自由解散	機	-	-

(ツアーのお問い合わせ&お申し込みは)
ワールドツアープランナーズまで

info@wtp.co.jp

[Link](http://www.wtp.co.jp/) <http://www.wtp.co.jp/>

東京、神奈川、千葉、埼玉からは **Tel 03-5425-7711**

上記以外からは、**フリーダイヤル0120-537355**

営業時間: 10:00～18:30(平日)、10:00～15:00(土曜日)

MINPI CRUISE ミンピ号クルーズに役立つ
ちょっと細かい

インフォメーション

鍵井靖章と行くミンピ号の旅